



復刊第81号

題字 吉岡弥生

一九八〇年の新年に思う



会長 三神美和

明けましておめでとうございます。会員の皆様にはよい新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。新年を迎える度に思うことは、一年という歳月のあまりにも短いという事です。「光陰矢の如し」という諺が実感として迫ってまいります。すぐずしてはいられないという思いにかりたてられます。また昨年より今年よりよい年であるよう、実りある年であるようと希う気持ちで一ぱいです。本会もよりよい年であるよう希い、努力したいと思っておりますので、何卒よろしくご協力の程お願い申し上げます。

昨年は本会にとって波乱に満ちた年でありました。二月の臨時総会について、五月の定時総会、役員選挙へと続く一連の慌しさ、会の分裂にまで迫込まれそうな重い空気に包ま

れた一年でした。執行部の辞任があり一時はどうなるかと胸を痛めておりましたが、曲りなりにも新執行部が選出され、六月以来各部署分担の理事は、新たな決意で、日本女医会の新しい出発を目指して努力しておりますので、今年はその成果が見られるものと期待しております。

日本女医会の存在理由は、会員の親睦は申すまでもありませんが、お互いに切磋琢磨して自分自身をすべての面で高め、医師として社会にたくそう、それは国内だけでなく、国際的にも手をかそうということだと思

います。会員として何のメリットもないということをよく耳にします。しかしそれは小乗的な考え方だと思

日本女医会を支えていただくという大乗的な考え方に立ってご協力いただきたいと思ひます。社団法人という公益団体であるからには、何か社会に奉仕することを考えねばならぬと思ひます。社団法人に対する国の監査の目は、昨今特に厳しいものがあるようです。こうした観点に立って、今年の仕事を進めて行きたいと思ひますので、何卒よろしくご協力の程お願い申し上げます。

昨年十一月十日に学術部が主催した研修会における国弘正雄氏の「国際社会と日本」と題する講演は私どもに多大の感銘を与えました。このま

目次

一九八〇年の新年に思う	三神 美和	1
年頭に思う	山崎 倫子	2
第二回研修会		
新生児の保育ことにハイリスク新生児について	野呂 幸枝	3
特別講演をきいて	藤井 儔子	4
観劇会をおえて	事業部	4
観劇の夕べの集い	添田 百枝	4
観劇「大石内蔵助」	黒瀬千鶴子	5
国際会議のお申し込み		
母を偲んで	小暮美津子	6
三辺幸子先生のご逝去を悔む	井原 匡子	7
支部展望 四国地方		
高知だより	小出つる子	7
香川だより	蓮井敏子他	8
インドシナ難民を助けるために	山本 杉	9
忙中閑		
私達の英会話	稲生 襄	10
理事会議事録(九月・十月・十一月)		10
会員動静		12
編集後記		12

さねばならないと思ひます。

昨年十一月二十四日「インドシナ難民を救う会」という会が発足しました。国としても難民対策に多額の寄付をしておりますが、外国での評判はよくないということです。そのわけは、目下最も悲惨であつて問題となつているタイ国境にあるカンボ

付して体を張って奉仕しないことなどであると聞きます。それで民間の団体としてこの会が結成され、呼びかけがありましたので、日本女医会も入会しました。難民の80%が病人であることから医療の手が必要という事です。本会もその方に何等かの助言など出来ればと考えております。日本女医史を繰いて見ますと、本

会是国内的災害にも国際的災害にも

卒先して、救援活動に参加してあります。富める国となった今、私どもは物心両面において、与える心を持たねばならないと思います。

国際的連繋という意味で、今年第十七回国際女医学会がイングラントで開かれます。すでに女医学会上でご案内申し上げたように、二つの旅行会社で旅行計画をたてておりますので、奮って会議にご出席下さい。日本からも二、三の演題が出されております国際女医学会における日本の地位は見直されております。これはひとえに会員の皆様のご協力によるものでございます。会議毎の多数の出席者、佐野国際募金委員長による多額の寄付など、物心両面による寄与が良く評価されたものと思えます。期待される日本女医学会として国際的にも大いに活躍して下さい。

国内的にも本年は五月定時総会が群馬県伊香保で開催されます。支部長岸直枝先生始め支部会の皆様が早くから計画を立て張り切っておられます。二百五十名はどうしても来ていただかなければならないということですので、何卒万障お繰り合せの上、湯の町伊香保へお出かけ下さい。親睦の場であると同時に、会の運営方針をご討議いただく場である総会へ多数ご出席いただいで十分意見を交換し、会が一丸となって仕事をし、行く実を示したいと存じます。より一層のご協力をお願い申し上げます。新年に当り一言所感を述べてご挨拶と致します。 五十四・十二・八

### 年頭に思う



副会長 山崎 倫子

新年おめでとうございます。昨年十一月研修会が開かれましたが、野呂幸枝先生のご講演「High Risk Infant」は臨床医家、特に日々患者の診療、教育、啓蒙にたずさわる私どもにとつては非常に有益なものでした。未熟児を育てるといふ場合、二、〇〇〇グラム以下一、五〇〇グラム位の未熟児はもはや問題ではなくなり、今や一、〇〇〇グラム以下の未熟児をいかに生かし育てるかに挑戦しているのだと聞き、驚きと共に怖れをさへ感じました。

たまたま「Who should play God?」(訳本、遺伝工学の時代——誰が神に代りうるか——)を読んでいます。たので、科学の進歩に対して何とも複雑な感慨をもちました。一寸ご紹介してみます。

一九五三年、ジェームス・デューイ・ワトソンとフランシス・クリックによってデオキシリボ核酸(DNA)塩の構造が発見されて以来この方面の研究はめざましい進歩をみせていますが、近年では遺伝子の組換え等が実験室で行われています。その遺伝工学の第一段階である人工受

精によって生れた子供がアメリカではすでに一〇〇万人にも達し、毎年生れる子供のパーセントは人工受精によるといわれています。A I H (夫の精子による人工受精)とA I D (夫以外の精子提供者の精子による人工受精)があることはご承知の通りですが、人工受精は絶好の操作対象となりつつあります。すでに、シカゴ、ニューヨーク、ロスアンゼルス等十二の都市に企業として精子銀行が出来ています。

たしかにA I Dは畜産業界では、優生学的人工受精法としてすでに広く応用されています。アメリカでは毎年生れる六千万頭以上の牛の九五パーセントは人工受精によるものであり、同じように五千万頭の羊、百万頭の豚、十二万頭の馬、六万頭の山羊、四百万羽の七面鳥が毎年作られています。

しかし「より優れた」個人を作るために人間の生殖を誘導しようという実験が行われるとするならば、それは果して科学の素晴らしい進歩といえるでしょうか、誰が神に代り得るのでしょうか?

### 謹賀新年

- |      |       |    |        |
|------|-------|----|--------|
| 会長   | 神田美和  | 理事 | 川那部善美子 |
| 副会長  | 福永公子  |    | 高藤イサヲ  |
|      | 柳瀬路子  |    | 佐野アヤ子  |
|      | 山崎倫子  |    | 清水辰代   |
|      | 福永孝子  |    | 鈴木文子   |
| 常任理事 | 小俣久子  |    | 野口志子   |
|      | 久保田くら |    | 野呂幸枝   |
|      | 佐藤千代子 |    | 蓮井好子   |
|      | 竹内静香  |    | 栗原文子   |
|      | 野村良子  |    | 藤井優子   |
|      | 松岡 宏子 |    | 藤岡就代   |
|      | 丸山美実  |    | マキナリ   |
|      | 宇野素子  |    | 森川幸子   |
|      | 一本良子  |    | 山本 杉   |
| 理事   | 尾中妙子  | 監事 | 今井信子   |
|      | 大魚一枝  |    | 添田百枝   |
|      | 川口心子  |    | 山口云重   |
|      | 川島富久子 |    |        |

もとに戻りますが数百グラムの未熟児を育てることに全知全能をつくすことが真の科学の進歩なのでしょいか、未熟児を生まないため、生ませないための教育、指導等の努力こそより容易であり重要なのではないのでしょうか。(野呂先生のご意見も同様でした)

またカーター大統領の国際児童年へのメッセージは、現在アメリカには虐待を受けている子供が一千万人もおり、二人に一人の子供は歯科医にかかったことがない実情を記し、児童福祉への関心を訴えています。

また一方ではなお世界の多くの地域で食糧の不足に苦しみ、医療も教育も受けられない子供達が何千万人もいるのです。

横道にそれましたが、科学の進歩と現実のアンバランスをもっと深く人道的に考えねばと感じました。

さて外部講師、国弘正雄氏の「国際社会と日本」のご講演は日頃新聞やテレビ等からは計り知れない国際情勢の裏表、もはやどんな出来事でもそれは外国の問題なのだといっておれない、インターメスティック(国際的であると同時に国内的)なかわりを持つ事例を挙げて話されました。内容といひ話術の功みさといひ時の立つのを忘れる程でした。

日本は国際社会の中の日本であり私もまた国際人としての認識と自覚が必要であることを痛感しました。せつかくの素晴らしい企画にご参加の少なかつたことは非常に残念でした。

今後は多数ご出席いただけられるよう、その時期や手続きなど検討しなければと思います。

さていよいよ一九八〇年、新しい十年間を迎えるに当り社団法人の本質について考えてみたいと思います。

法人には社団と財団がありますが、社団法人は会費によって運営されるもので、いわば会員の集合体であり、財団法人は寄付金により運営されるもので、つまり金の集合体です。しかし何れも公益を目的とするものでなければなりません。

公益とは、社会全般すなわち不特定多数の利益をいうもので、私益に对立する概念です、法人の設立者や構成員の利益を目的とするものは公益があるとはいえません。(公益法人の理論と実務から)

社団法人日本女医学会は定款に「医学に関する調査研究、医療の普及、および公衆衛生の向上ならびに女医相互の啓発及び親睦を図り、もつて女医の社会的使命の遂行と国民福祉の増進に寄与することを目的とする」と謳っています。さらにその目的を達成するために次の事業を行うとしています、(1) 医学に関する諸般の調査研究およびこれに対する助成、(2) 医学に関する研究会および講演会の開催および後援、(3) 医療の普及(医療奉仕を含む)及びこれに対する助成、(4) 公衆衛生の向上およびこれに対する助成、(5)(6)(7)(8) 省略、等であります。

以上社団法人としての認識を再確

認し女医学会にふさわしい事業を年々発展させてゆきたいと願うこと切です。地域には地域の、女医学会全体としては全体としての事業があるのでないかと考えます。

第二回研修会

新生児の保育

ことにハイリスク新生児について

関西医科大学 野呂 幸枝



演者 野呂幸枝先生

一九七一年に吉岡賞をいただきました。この度その業績を述べる機会を与えられましたことを感謝いたします。

新生児は産科と小児科の谷間に置かれた存在であって、研究が乏しい時代が永く続いた。一九四五年頃から欧米より新しい新生児研究成果が伝えられ、我が国の小児科医の一部

今や会員は五十四大学の卒業生を数えるにいたりました、嬉しいことです。会員の積極的な参加協力により一九八〇年代の一層の発展を期したいと思います。

も深い関心を持つものが増し、新生児保育施設が新設されて熱心な研究が始められ、産科でも同様に新生児研究が盛んになり、両者協力して日本新生児学会を結成したのである。私どもも最初からこれに参加し、その後当時としては最も充実した未熟児センターを持ち、多くの未熟児及び異常新生児の保育、治療にあたった。

欧米の新生児学はさらに発展し、その診断、治療は新しい方法に変わり、我が国もこれを取り入れた。ことに最近ではエレクトロニックスの導入によって目覚ましい治療法の進歩をみている。

したがって私の古い研究成果はすでに日常保育の場にとけこんでしまっているものもあり、あるいは新しい方法に置きかえられている事項もある。私の研究は主として新生児の成熟

- 度評価法、呼吸障害、細菌感染症についてである。二十年余の間の目覚ましい医学の進歩の概略を述べながら私の研究を紹介させていたたく。
- 一、未熟児の定義の変化とこれに関係のある用語について
- 二、新生児の成熟程度の表現法
  - (一) Lubchenco による在胎週別体重、身長曲線
  - (二) Lubchenco 体重曲線と新生児罹患率及び死亡率
  - (三) 多乏的成熟度評価法(野呂)と評価項目の利点と欠点
  - (四) 多乏的成熟度評価法と出生時体重及び在胎週数と死亡率との関係
- 三、Lubchenco 体重曲線と新生児疾患との関係
- 四、ハイリスク新生児とは何か
- 五、ハイリスク新生児の一般的取扱方とNICUについて
- 六、呼吸障害児の病名とその変遷について、病理学的研究の進歩
- 七、細菌感染症について
  - (一) 咽頭菌よりみた細菌感染症の罹患率
  - (二) 新生児重症細菌感染症の特異性と早期発見の要点
- 八、主な新生児疾患の診断と治療法
  - (一) アルカリ療法及び輸液療法
  - (二) 経皮的動脈血酸素濃度測定と人工換気法の進歩
  - (三) 重症黄疸の進歩
  - (四) CO<sub>2</sub>と保温器に進歩、その他
- 九、新しい治療法についての注意と反省

(一) 新生児に苦痛、障害を与えないように

(二) 基本的な保育を忘れぬように細心の注意をする

十、移送の問題

MCUを中心として地区的分類と

理想的な移送方法

十一、母子関係の問題

母乳を与えることの困難さと長期入院児を迎える家庭のあり方に

つき生じる問題点

以上の諸事項につき簡単であるが

のべ、新生児ことにハイリスク新生児を保育、治療するためには一時の

油断もできない緊張の毎日である。

医師、看護婦のみでなく検査技師の

昼夜をとわぬ協力も重要である。

新生児外科、眼科とも密接な連絡

をもたねばならない。

初期は医師の数も少なく私の時間

的、体力的犠牲も多かったが情熱

をもやして新生児に接して過ごした

といえる。この新生児が退院した後は

五歳まで定期的に受診、遠方に転居

した場合は発達状態を報告していた

だくように指導したが、これに應じ

て連絡して下さる方も少なくなっ

ている。

出生時体重1kg程度で生れた児が

普通の成熟児のように3kgになるに

は二カ月以上の保育をすると、苦勞

した児程愛情が深く残るものである。

幸福にのびのびと成長してくれるこ

とを願ってやまない。

### 特別講演をきいて



演者 国弘正雄氏

学術部 藤井 儔子

日本テレビニュースキャスターとして活躍されている国弘正雄氏(国際商科大学教授・上智大学講師)による「国際社会と日本」と題した講演が雨天の十一月十日(土)午後至誠会館四階講堂で行われた。

世界をとりまわって、ハダで国際社会の動きを読みとってニュースを流し、また、日本のあり方を評価する職業人の一つの観点として、これからの日本人は「Internestic」の視野をもたねばならない、日本は必然的にInternesticの難かしい問題をかかえた国として存在せざるをえない点を具体例をあげてのべられた。InternesticとはInternationalとDomesticの造語とのこと。

ある日の朝、局でうけた国際テ

ックスがアフリカの一国ビュータ

の政変を伝えた。目立たぬ小国の出

来事として、さして気にせずに立寄

った、とあるコーヒーショップで、

商社マンらしき人々の会話が、なん

と今朝の外電にあった国ビュータ

の自社への影響であったことに、今

さらながら世界の中の日本の立場、

あり方を考えさせられたという話

はじまって、現在火の手が次第に大

きくなるイラン情勢と日本の関係、

目下優勢なイスラムシリア派の支

配下のイランと日本あるいは諸外国

との石油を間にしての微妙な関係は、

多くの日本人が関心をもって見守

ていることであり、まさに、Inter-

estic Problem のよい例としてのべ

られた。

また、日本人論にも発展し、うる先

進国としての日本の、世界の発展途

上国への援助の仕方(?)を指摘

された。

イラン問題をききながら、次期国

際女医会会議を開催する場として、

西ベルリンの総会において、はれや

かに、いかに政府の期待も大である

かを力説したビルニア イラン女医

### 第二十五回

### 定時総会および観光のご案内

本年の総会は、群馬県伊香保町で開催されます。

総会の際懇談の時を持ち、翌日は群馬にふさわしく「桐生織物と

きのこを訪ねて」と「榛名をめぐって普茶料理」を味わう観光を計

画しておりますので、まだお申し込みしない方は、至急群馬支部

へご連絡下さい。

総会日程 とき 昭和五十五年五月二十四日(土)二十五日(日)

ところ 群馬県伊香保町「福一旅館」

連絡先 〒376 群馬県桐生市相生町二二七七

岸 直枝 ☎〇二七七(五四)八九四九

### 観劇会をおえて

事業部

新年お目出度う存じます。

昨年くれ帝劇での催にさいしてはお

かけをもちまして盛会裡に終了致し

ました。これも一重に東京各地区支

部及び近県支部の諸先生方の多大な

ご協力の賜と深謝しております。

当日は天候に恵まれ温暖で会場で

はそれぞれに歓談される方また、お

知り合いの先生をさがされるお姿等非

常になごやかな様子がみられました。

なおストーリーも笑いあり涙ありと

面白く最後まであきることなく楽し

いものでした。切符の枚数も限られ

ており何かと不行届の点もあつたか

と存じますが、よろしくご諒承下さ

い。とりあえず紙面をかりましてご

協力の諸先生にお礼を申し上げます。

(文責丸山、稲葉)

### 観劇の夕べの集い

渋谷 添田 百枝

この一世紀で最も暖かい年となった師走の八日、すでに前号日本女医学会誌で、事業部が計画し、紹介されました「大石内蔵助の生いたち」帝國劇場で演じる観劇の夕べに心うきうき参りました。

私は毎年数人の友人をおさそいして、また今年にはコロンビアから干大生物活性研究所に留学中の、アンチオキヤ(地名) 大学教授マリヤさんを招待した。日本での明け暮れは男性研究者の間であつて孤軍奮闘中であり、日本の女医さん一人も知らぬ環境にあつて、やがて三年も終るところです。劇場の入口には、和服姿もあでやかに丸山美英先生が友人の方々と皆を待っていた。会場に入ると三神会長先生はすでにお出になつておられたのでマリヤさんをご紹介した。彼女はとても喜んで、「立派な先生方にお会い出来て、とてもうれしい光栄です」大分上手になつた日本語で感激していた。はじめた父系の祖国のお芝居は「とても美しい」を連発、はからずも国際親善の役を果たしました。

十二月になると、日本のどこかの劇場で演じられる忠臣蔵が最も人気をよぶ。主役が誰であろうと、大入満員になるところは、日本人の



〈1幕〉梅之助—竹太郎  
三浦布美子—お幸

心の中に燃えつつづけているノスタルジアだけで解決つくわけでもないが演劇と知りつつ互に感涙にむせぶ、なごやかな交歓風景は得難いものであります。吉良、浅野両家のこの出来事は浅野家の塩田の卓越した塩の製法を教えて欲しかった吉良の申し出を断つたこと、さびれ行く塩の製法で業をにやしていた吉良の腹立ちなどが原因でもある由、うなづける因果関係があつたわけでありましよう。帰えり途でもお会いした各支部の諸先輩も三々五々、晴々しいお顔で、また、お会いしましょうなど言葉交しつ、名優たちの演じた年末の暖かい夕べの集いは大成功裡に終りました。

五十四・十二・二十二

### 観劇「大石内蔵助」

葛飾 黒瀬千鶴子

銀杏の黄色い落葉をふみながら帝劇へ向かった。一九七九年十二月八日、土曜日、季節にしては暖かい夕暮れであつた。国電有楽町駅都庁口下車、皇居外苑に向い合う帝國劇場には開演一時間前というのにもう二、三十人の人達が待っていた。日頃お忙しい先生方、従業員、知人、ご家族の方であろうか年配の方々も今日ばかりは日頃の雑事から開放され、心の洗濯をしようと皆にこやかに談笑していた。五時開演ということ、三十分前より開場、十五分位前には日本女医学会長の三神先生もあざやかなグリーンのコートを召してなごやかな笑顔をお見せになった。約二千席を容れる観客席のA席五百席を女医会で貸り切り、全館満席の盛況だつた。現大衆文壇を代表する時代物専門作家である。池波洋太郎原作、小野田勇脚本、高瀬精一郎演出、東宝前進座提携「大石内蔵助」おれの足音はあの「忠臣蔵」の中で特にスポットを人間内蔵助にあてたものである。大石内蔵助に扮するのは中村梅之助、大石りくにはベテラン女優の草笛光子、その他三浦布美子、「お幸」河原崎国太郎「於干」嵐芳三郎「浅野内匠頭」吉良上野介「中村鶴藏」三木のり平「服部小平次」中村習右

衛門「堀部弥兵衛」といった芸達者がズラリと勢揃いし、泰平の元禄時代を華やかに再現したわけであるが、今までの忠臣蔵事件を直正面から描いた正統派の作品ではその大筋の展開に知悉のものがあることは否定できない。したがって今回は作者のユニークな趣向の案出により新しい大石内蔵助像として今までの謹厳実直な端正なイメージではなく、人間臭あふれる対女性関係にウエイトを強く置きながら、巧みに忠臣蔵物語の本筋すなわち、元禄十四年(一七〇一年)三月十四日、この日は江戸城中は朝廷からの年賀御答礼使(勅使)の登城をひかえている最中に勅使接待役播州赤穂城主浅野内匠頭長矩が城中松の廊下において、高家筆頭吉良上野介義典に刃傷におよび即日切腹のち浅野家断絶、上野介はお構いなしという事件そのものよりも幕府の処理の仕方が問題である、赤穂事件の終りを飾り、かつ事件全体の核心となる習元禄十五年十二月十四日大石内蔵助良雄以下四十六士の吉良邸討入りという重要な行為が、実に即日の浅野長矩の切腹と赤穂浅野家の断絶という幕府の処分そのものを出发点として成り立っているのであるがこの幕府上層部の政道の間違

を正すべく大石内蔵助を盟主とする赤穂浪士による仇討という義挙は実行されたところではえがいていてうまく観客を芝居の中へ引っぱって行く。曾我兄弟荒木又右衛門の仇討と並ぶ忠臣蔵は日本人の付和雷同癖もさることながら強いものを恐れ、權威に屈服しながら一方弱者、敗者に同情するといふ民族性から非常に人気があるのである。曙曾我夜討として寛延元年で初演されて以来二百七十年をこえて、さまざまのバリエーションを持つて観客大衆の絶対支持を得ている。徳川期における武士の義とは何であるか幕藩制の精神構造の解明が必要である。史実を知らなくても映画、芝居、講談、浪曲で活躍する浪士に関することは全国津々の誰れもが知っているといつてもよいであらう。人々に広く膾炙している伝説と専門書との記述の違いはさまざまである。勅使饗応役は十七年前経験済みなので、上野介にワイロを充分しなかつたという説、または内匠頭の性格(苦勞知らず、神経質で短慮)または塩をめぐる対立(浅野の塩は良質で量も多かった。吉良は塩を一つの財源としながら技術革新が出来ないあせりがあった。山鹿素行といふ儒者による正義感をうけついでしかし内匠頭の場合正義感というより短絡的で思慮分別がなく三十五才にもなるのにああいふ行動をとればお家断絶になるのは分っているはず。つけ届けをしてまで教わらなくても

いいではないか、お札は済んでからでもいいではないか「元禄の金がモノをいう世の中」という感覚にうと

だが吉良を殺したわけではない吉良は刀を抜かなかった。極悪非道と非難を一身に浴びつづけた吉良上野介

切りつけ方も小刀で後から、ふりかざしたのも幕府の刃傷事件に対する対虎の仕方に対する解釈の仕方の相違が問題である。これには当時の徳川期における幕藩制のもとにおける家臣と武士、大名と家臣との関係、さらに將軍と大名との関係、つまり幕藩制そのものを律する規範の問題

士として義にかなった行為をしたはずなのに切腹させられ片手落ちである、喧嘩とみた場合両成敗されなければならぬ。幕府は浅野村吉良という場面で考えず幕府浅野という場面にとらえた。所に根本的食違がある。処分―長矩の切腹と浅野家の断絶により事件は落着いたと考えたのに対し、浅野側は武士として大名として大きな恥辱をこうむった上は恥をそそいで名譽を回復せねばならぬという課題が新たに与えられた。徳川期の社会の枠組みといえる幕藩

制の精神構造にまで迫って、歴史の真の姿に近よってみる必要がある。もう一つは仇討に対する考え方である敵が幕府でなく、このことは幕府の処置は大石は肯定しているが恨みを残して死んでいるので家来はこれを晴らさなくてはならない、仇討のあと仕官の道がひらけることを期待していた。とか直後直ちに切腹しな

かった、天命を待つという法の裁きを待つという泰平の世の武士道で戦国武士の業隠とは違う。吉良の意志とは無関係の幕府の幕法による処罰であり吉良に向って恨みをむけるのは、逆恨みである、ともかく史実はともなく大平の元禄を震

駭させ史書、小説劇曲などで仇討として、快拳とされ泰平の徳川時代に彩をつけた事はたしかであろう。様々な想いを廻らし遊ぶうちに幻想的な舞台の灯りは消えた。

### 国際会議の

### お申し込み

一九八〇年の国際女医学会議のプログラムと登録用紙が届きました。先にお知らせしたように、登録申し込みは本部に、旅行申し込みは旅行社に直接お願い致します。

ざっと日程を記しますと、八月十七日終日登録、夜英国女医学会主催の歓迎夕食会、翌十八日から二十二日

まで、開会式、一般講演、総会等、二十二日夜バンケット、二十一日には見学六コースが企画されています。本部または旅行社にお申し込み下さい。詳細な資料をお送り致します。

参加希望の方は登録費、手続き、連絡等諸経費を含めて、参加者六万五千元、同伴者四万五千元を本部宛ご送金下さい。(為替レートの変動がはげしいため不足を生じた場合は追加申し込み受取もござりますのでご承知下さい)銀行振込みの場合は、

富士銀行新宿支店

日本女医学会、バーミンガム会議口座

普通預金 五五五三二

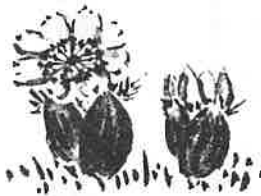
◎同時通訳について

バーミンガム会議場には同時通訳の設備がなく、またその装置をつけることもむずかしいとの結論が出ました。したがって同時通訳はございませんのでご承知下さい。

しかし何等かの方法で会議の内容についてはお知らせ出来るよう努力致します。

なお、参加申し込みの締切は、二月十五日まで延期いたします。

国際連絡書記 山崎記



## 湯本アサ先生のご逝去を悔む

### 母を偲んで

東女医学内

小暮美津子



湯本アサ先生

母は十二指腸壁の平滑筋肉腫というめずらしい病気で、二年間の闘病生活の末、十一月二日、七十七才で永遠にかえらぬ人となりました。母の生前たまわったご厚情のわずかに心からお礼申し上げます。また葬儀の際は、お心のこもったご弔慰、ご芳情をいただきますことには有難いことと感謝しています。

今にして思えば、皆様とご一緒させていただいたブラジルの国際女医学会は、楽しい思い出の一つとなったことと思えます。父が老令で病弱だったものですから、どこへ出かけても、どんなに遅くなっても河田町の自宅へもどき、父の面倒をみていた母でしたが、二年前に父をなくし、とても寂しがっていた頃でしたので、ブラジル行きをさそった時には、喜んでついてきてくれました。旅行中は、娘の私よりずっと元気で、各地

で大使館に連絡をとり、保育行政を調べたり、保育園の見学などして精力的に動きまわり、集合時間ギリギリにもどったりして、ホテルで待っている私をはらはらさせたものです。また気が若くて、私達若いものが、飲みにいったり、カジノに行く相談をしていると一緒に行くと言って困らせたものです。日本での国際女医学会では広報部で英字新聞を出しました。私も母と一緒に京王プラザホテルに泊りこみ、母の手伝いをしましたが、新聞のメインは前もって取材済みで、英文も専門家にみてもらってあるという用意周到さで、あとは当日の行事予定や天気予報、参加者の感想などを少々加える程度ですむというものでした。あの小さい体の中にこんなバイタリティがひそんでいたものでした。

病気については本人には勿論、内密にしていたものですから、自分の病状にどうしても納得がいかず、あちこち相談に行き、お世話になったことと思えます。常日頃から体には充分注意していたのですが、残念なことでした。母の好きな讃美歌に、「みちはけわしく ゆくてとおし ころろすすかたに いつかつくらん」



という一節があります。責任感が強く、精神誠意ことにあたる母のことでしたので、まだまだやり残したと、言い残したことがたくさんあつたらうと無念でなりません。私も

### 三辺幸子先生のご逝去を悔む

目黒 井原 匡子

しました。

九月二十四日、夕食の後で、ゆっくり寛いでおりました。今まで、お天気続きでしたのに、夕方より雨が降り出して来て、何となく気のゆるみを感じておりましたところ、浜田先生よりお電話で、三辺先生が、お逝くなりになりましたとお知らせを、いただきました。一瞬背すじの寒くなる思いがいたしました。そして、このことは嘘ではないかと、自分の耳を疑いました。

もう荒井先生と原先生が、お悔みにお出かけなさったとのこと、私も、早速お伺い致さなければと、支度をいたしました。外は雨がしよぼ、しよぼと降っており、何とも言えない淋しい思いが、致しました。ご自宅に伺いました時は、先生のご遺体は柩に、納められて、純白の菊の花に、囲まれておられました。

遺族も及ばずながら母の遺志をついで参りたいと存じますので、どうか一層のご支援、ご交宜を賜りたいと思います。

日本女医学会目黒支部長を、長い間、お勤め下さりまして、いつも、にこにこ眼鏡の下から、眼を細めて、お話しなされたお姿を、今でも、はつきり思い出されてなりません。先生は、目黒支部の為に、気を配ばられ、会員の親睦には、ことさらお盡し下さいました。

私事になりますが、先生とは出身校は、違いますが、それをちつとも感じさせない位に、親しくお付き合い下さいました。また私より一年先輩で、いらつしやりましたので、一層親近感が深かったと、思います。医師会の隣組でも、一緒にありますませんでしたがお近いので、開業間もない頃よりのお付き合いでした。また、私の患者さんが、時々先生のお世話になりましたが、とても優しく、親切な先生と、賞めておりました。我が家では、主人が鼻茸で、子供二人が扁桃腺摘出手術を先生にしていただきました。今年の春、外国におりました長男が一時帰国の

折に、外耳にひどい湿疹が出来て、ご診察をお願い致しました。その後で、私がお挨拶にお伺い致しました時は、お元気で、日の暮れるのも忘れて話し込んでしまいました。それが、お目にかかった最後にならうとは、夢にも思いませんでした。人の運命のはかなさをつくづく感じさせられました。

時々淋しい思いに、かられてなりません。気が取り直して、先生の後を継いで、微力ですが会員相互の親睦の為に努力いたしたいと思っております。

お二人のお子様も、ご立派に、それぞれ先生の後を継がれ、活躍しております。早くお逝くなりになりましたが、医者として社会に盡され、またご家庭では、良き妻、良き母親として、お役を終らせられました。

告別式の時に、ご主人様が、ご挨拶に、皆様一人一人のお顔を思い出しながら、三途の川を渡っておるとでしようとおっしゃられました。が、どうぞ極楽浄土に早くたどられてみ佛の掌に抱かれて、安らかに眠り下さい。それでは、ご冥福を祈りつつ筆を置かせていただきます。

前江東支部長諸橋先生は、保護士として三十年間更生保護事業に尽された功績に対し、勲五等瑞宝章を受章されました。

### 支部展望

### 四国地方

### 高知だより

高知 小出つる子

ちょうど十年前になります。窪敦子先生のご提案で四国内の女医さん方によびかけて、四国女医学会が発足しまして本年で十年目、この度び十一月二十四、二十五日にかけて、高知県土佐市にある「土佐」という宿舎で十周年会をいたしました。出席者は五十四名、好天に恵まれ、出漁の魚船も豊漁か、取れたてのお魚五種類の名物料理皿鉢に盛られたお刺身は大好評、前夜祭の二十四日の夜はリラックスしてN先生の武田節の名舞踊をはじめとして、ヨーガをしたり、唄ったり大した賑わいでした。

会当日の二十五日は、よこなみ荘からさしまわしのバスで会場よこなみ廻転レストランへ向いました。太平洋から昇る朝日は旭光を美しく海に映えさせて午前六時半に少し顔をみせただけで、大体薄曇りながら、かすかに室戸岬と、足躍岬が雲間に時々浮かび、右に太平洋の黒潮の流れを、左に横浪三里と呼ばれている浦ノ内湾を見はるかす尾根の上に建てられた廻転レストランで皆さんモーニングコーヒー、午前十時から会議及び講演、食事、余興と盛りだくさん、昨夜は魚、本日は伊勢エビの刺身と、形のまま蒸し煮にしたカブト蒸し、大皿に山と盛られたサザエ、

# 香川だより

香川  
蓮井 敏子  
東条 松子  
松浦 俊子

## 高松市

四国の玄関。高松市は人口約三十万、県庁の所在地として、しかも名勝旧跡が数多く中でも特別名勝指定の栗林公園。また、古戦場として昔の源平の思い出には無くてもはならぬ屋島の旧跡。また、海を渡っては有名な景勝地の小豆島あり、その他名所旧跡歴史上の物語の夢を秘めた幾百年前のなつかしい思い出の多い中心地です。

## 一、栗林公園

この公園は日本三公園よりすぐれた見事な名庭園で、そもそも沿革を申しますと、寛永初年およそ三百年十年前時の藩主、生駒高俊公が姿美しい紫雲山を背景に南湖一帯を造園され、さらに寛永の末入封された藩主松平頼重公に引き継がれました。以来五代の頼恭公にいたる百年余の間歴代藩主が修築を重ねて延享二年遂に完成されたものでその後松平家十一代二十二年間にわたり下屋敷として使用されました。

## 三の丘があります。

南庭は早くから築庭せられ江戸初期に見られる廻遊式大名庭園の姿を残しております。北庭は元禄頃に造園され鴨場として使われておりましたが、明治の末から大正の初期にかけて近代的に整備改修されました。

## 「掬月亭」

旧藩主が使用した茶室で大茶室とも呼ばれた。この建物は園内に建てられた数多くの建物のうちで最も一番大きく特に主要な四方正面ともいえる珍しい建物である。

## また掬月亭とは旧藩主の別荘

「栗林荘」内の大茶室と呼ばれた建物の一棟の名称であり南湖に面し、中央の初庭観を含む七つの棟の配置が北斗星に似ているところから総名を星斗館とも呼んでいた。現在は二棟除かれ五棟を「掬月亭」と呼び、月の眺めが特によいので唐の詩人千良史の「掬すれば月手にあり」の一句を取ったものであるといわれる。この建物は江戸時代の初期に藩主生駒家によって建てられたものと推定されています。指定年月日を記すと

明治八年三月十六日県立公園(太政官布告)

大正十一年三月八日名勝(内務省)

昭和二十八年三月三十一日特別名勝(文部省)

となり今日にいたっている。南湖には楓岸あり紅葉の美しさを見せ、偃月橋からの風景は公園一番の美景といわれます。南湖に廻ると赤橋、錦鯉のたわむれ、それを行くと梅林、北に進めば左に西湖、右に百石松、商工奨励館、民芸館、美術館などが建ち、北に向くと群鴨地ありと四季を問わず見事なものである。

公園入口には動物園もあり沢山の種類の動物を見ることができ子供が一日中楽しめます。

## 二、屋島

世界海上の一大公園と呼ばれた瀬戸内海国立公園の風景を一層絶佳なものにするのは屋島である。

この海上公園の中心地で展望台として絶好の位置と適当な高さを有している。山上からの風景はいたる所実には雄大、かつ壮観で到底筆紙に書すことが出来ない。

屋島は今や全国に卓越した観光地として、内外人の賞讃する所である。その特色は

一、大自然の雄大が絶佳な風光の地

一、情緒に富む感興深き史蹟の地  
一、価値多き天然記念物の好個の見学地

一、信仰上靈蹟あらたかなる修行の地

であってこの特色が相結合して屋島を築きあげたのである。

## 「史蹟」

屋島は瀬戸内海の要所にあつて昔から国防上重要地として重要視せられ山城を築き、兵備を充実させていた。また我が国初まって以来西日本の歴史で天下の争覇戦や英雄の興亡にかかる史的イベントはこの地に「生んだもの」が多い。特に源平合戦のごとき悲壮史跡の探るべきものがあり感興を動くこと切なるものがある。

## 「天然記念物」

地学上熔岩台地の標本として富士山と相並んで富士型、屋島型として天下二大模式の秀峰である。また岩石、樹木等も学究の価値と興味を有するものが多い。

## 「信仰」

孝謙天皇以降千二百有余年間宗教上、信仰の霊場で僧鑑真や弘法大師の霊蹟あらたなのが長く修道の参拝者が常に四季絶えることがない。

## 屋島のみどころ

○獅子霊巖(ししのれいがん)

この名称の記源は、この断崖の下に奇巖があり、それが獅子に似ている。弘法大師が屋島寺建立の時この巖上に立ち祈願し扇をふって日を回天させ一日中に建立し終わったのでこの名がある。この霊巖より男木島、女木島が展望される。女木島は童話の昔話の「桃太郎の鬼征伐」の鬼ヶ島で大きな岩窟が

あつて古来内海を横行する海賊の根拠地であつたといわれている。

## 談古巖

屋島三大絶景の一つで見下した一帯は源平の古戦である。海際あたりは合戦の折に、小兵義経は不覚にも自分の弓を手ばなし流したが、敵方にひろいあげられては自分の小兵な事が弓の小さいことで知られてしまふと思ひ急ぎ追いかけて取り戻した。その場所「弓流し」の所です。

また、那須の与一が平家方の船上より立てられた扇の要を見事射ち「ヤンヤ、ヤンヤ」と平家も源氏も一つとなり大喝采を博したのも、この海の有名な自慢話です。

## 五剣山

談古浦の海をへだてて五剣山がある。

「巨人のねたる姿や五剣山」とて海拔三百七十四メートル中腹には空海開祖の八栗寺、山麓に良質の



国立療養所大島青松園にて患者との対話……



石材を産出している。

○血の池

歴史上血の池は源平合戦の折、兵士が刀の血を池にて洗い見る見る氷が血の様になったのでその名あり。

○やしま狸

昔やしまに山狸がすみ大切な大きな戦いには参加して力をかしたに役立ったそうに今に祭られ拜まれている。

三、高松城

高松城は一名玉藻城とよばれ豊臣秀吉の家臣生駒親正によつて天承十六年に築かれました。瀬戸内海の水を引き入れた「水城」です。生駒家の後をうけて東讃岐十二万石の領主になった松平家これを引継ぎ武家政治のかなめとして明治維新にいたしました。

十五代藩主頼聡公の奥方として、井伊大老の息女千代姫おこし入れした故事にちなんで、彦根城と姉妹城の縁を結んでいる。

四、小豆島

小豆島は瀬戸内海の中で「オリーブの島」と呼ばれる最も詩情豊かな島で「壺井栄」の「二十四の瞳」映画化で一躍有名になりました。奇勝寒霞溪や銚子溪のお猿の国、その他数多くの名勝があります。中でも三千羽に余る孔雀が乱舞する世界に誇る大孔雀園、わけても平和のシンボル、オリーブはわが

国唯一の原産地であります。

また弘法大師が開かれたと伝えられる島四国八十八ヶ所の霊場があり、濃く、明るく、楽しい内海随一の楽園です。

坂出市

瀬戸内海国立公園の中心坂出市は歴史と緑の町であり、昔は塩の町として知られておりました。塩田廃止と共に、備讃瀬戸の航路を掘り広げその土砂で番の州を埋立て一大工業地帯に発展しています。また瀬戸大橋岡山―坂出も着工され約十年後には世界の注目をあびる日が来るでしょう。

崇徳天皇の御陵

「浜千鳥跡は都にかよへども身は松山に音をのみぞなく」

（崇徳天皇御製）

保元の乱に破れた崇徳上皇は讃岐に流され雲井御所で三年間滞在された。昨日に変わる田舎の御在所は只々淋しく、都を恋れ

ここもまた

あらぬ雲井と

なりにけり

空行く月の影にまかせて

その後府中鼓ヶ岡に木の丸殿が建ち、ここで配所の月を眺められ季節の風物に、都を暮れて六年余り常に都から便り待ちつつ写経の毎日を送られ長寛二年八月二十六日、四十六才で崩御されました。歴史の山五色台のうち白峯に御遣

勅によつて御陵を造営された。雨月物語にて記されたものである。

これに接して四国八十一番札所白峰寺がある。

四国女医会は毎年各県持廻りで総会を開催する。会員相互の親睦を図り地域社会の発展に寄与することを目的としている。

また、日本女医会香川支部も時々、国立療養所大島青松園（患者数五百名）を慰問するなどして地域社会の発展のため活動を続けているのです。

### インドシナ難民を

#### 助けるために

山本 杉

今、アジア諸国に滞留しているインドシナ難民の数は約三十二万といわれています。

この他にカンボジア避難民は五十万を越えるということですが、これに対し世界の受入数は（十月末現在）二十九万六千です。

国連加盟国は七月に難民国際会議を開き、この問題に対して各国が世界的規模で取りくむことを申し合えました。日本政府は、国連難民弁務官事務所を経費の半分と五千万ドルを負担すること、また五百人の受入をすることを約束しました。しかしこのような政府レベルでのやりかたは難民救済の実をあげるのにはほど

遠いものがあります。現地の難民の一番欲しいものは何か。それは食物であり、適切な医療なのです。日本を含む方々の国々から医療団が派遣されていますが、その人たちが現地へ行つて一番欲しいものは医薬品だといふのです。

各界の代表者が発起して「インドシナ難民を助ける会」が結成されました。その会長になられた相馬雪香女士は切実に医療品が欲しいと訴えていられます。

ともかくも瀕死の難民に今、必要なものは医薬品ということですから私たちはこの面での協力にやぶさかであつてはならないと思うのです。まづ実践です。私たちの手で医薬品を集めて現地へ送り込みましょう。

パンアメリカンは、この荷物や、これら運ぶ人はすべて無料ですと約束した（外務省と）ということですが、

栄養剤、消化剤、抗生物質、キニネ剤（強力なもの）、下熱剤、衛生材料（注射器を含む）など、さしあたって欲しいということですが、

製薬会社にもご協力をねがいます。そして、日本の女医の真心を結果してお役にたちたいと思うのです。みなさまの心からのご協力をおねがひいたします。

医療品等をご寄贈いただける方は、日本女医会事務局で取りまとめたいしておりますので、ご送付下されば幸いです。

### お知らせ

広報部

日本女医会に対し、従来より各種団体及び個人から多数の図書、パンフレットが寄贈されております。これらは会員諸先生のご希望により何時でも貸し出しご覧いただいておりますが、今回より会誌に掲載し、誌上ご案内致しますので、貸し出しご希望の方は本部迄ご連絡下さい。

八木

### 寄贈図書及びパンフレット案内

- 全国婦人新聞
- 協会ニュース 日本看護協会より
- 月刊前進座
- 全官報近刊ニュース
- 婦人展望 婦選会館出版部より
- えがりて 総理府婦人問題担当室
- 厚生省人事名鑑 環研通信社より
- 紫青会 婦人弁理士の会より
- 光のプレゼントニュース
- 世田谷医師会名簿
- 会館だより 国立婦人教育会館
- 婦人教育情報
- 浴風会
- 病院ボランティアだより
- 聖教クラブ
- 病院ボランティアだより
- 東京の女性 東京都民生局より
- 東京都行動計画
- 鶴風 東邦大学医学部鶴風会より
- 婦人団体名簿

# 忙中閑

## 私達の英会話

神奈川 稲生 襄

一九七六年(昭和五十一年)の夏東京で開催予定の第十五回国際女医学会に役立てたいとの事から四十九年十二月開始の私達神奈川支部主催の英会話は足かけ六年に及び十名の固定メンバーが未だに続いているという事はチョットした驚きではないでしょうか。ティーチャは三代目ですが米国のフレッシュマンで皆よい方に恵まれています。週一回、横浜駅西口の三菱信託銀行のご厚意により菱進横浜ビル九階にてこの九月まで致しておりましたが、都合によりこの十月から同じく西口の天理ビル十階の稲畑産業会議室を借りて快適に楽しく励んでおります。

五十三年夏ベルリンでの国際女医学会に議にもいささか役立った様ですが、来る五十五年の英国バーミンガムでの会議には、もっともっと役立てたいと同張切っておりますがどんなものですか？

早朝六時台のラジオを毎日聞く人あり、一週間かかってリーダーの予習復習を真面目にやる人あり、英文科出身の令嬢のアドバイスを受けたり、はたまた近所の津田英学塾出身の旧高校教師に助力を求めたりと、な

かなかこの年令での勉強は容易でなく夫々に道を求めて努力していることは涙ぐましい程です。軽井沢の星野先生(長野県支部長)から数年前おききしたのですが「軽井沢には外人も多く話すチャンスは沢山ありませう。夕方七時になるとキチント放送をきき十年頑張り続けた」とお話しに私どももイキ長くやって行こうと思っております。近頃の若い方達の英会話をテレビで見ると気落ちするのですが、何とか頑張りたいたいと思うわけですが、一方この英会話の集いはミニケーションの場としても最適で時にはティーチャを交えての会食や旅行をしたりして楽しい場でもあります。

新人のご入会を歓迎してペンを揃えます。



英会話のメンバー

### 理事会議事録

日時 昭和五十四年九月二十九日  
場所 至誠会館 四階会議室  
出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、八木、尾中、大原、川口、川島、川那部、齊藤、佐野、野口、野呂、蓮井、平瀬、藤田、森川、山本、今野、添田  
欠席(敬称略)  
守安、清水、鈴木、藤井、マツキ  
ンストリ、山口

#### 庶務報告

7月24日 昭和五十四年新卒国家試験合格者に入会勧誘状発送(五一六名)

7月28日 常任理事会、理事会を  
行

8月8日 国際連合日本政府代表部公使に就任された赤松良子氏の歓迎会に山崎副会長出席

8月13日 前国連日本政府代表部公使、緒方貞子氏歓迎会に山崎副会長出席

8月20日 公益法人会計基準の適用状況について厚生省に提出する

8月24日 日本女医会誌七十九号  
発送

9月6日 時事通信にルーペンゲン広告される

9月12日 第三十四回国連総会政

府代表代理中村通子氏歓迎会に三神会長、山崎副会長出席

9月13日 湯本アサ先生に病氣見舞を役員有志でする

9月26日 三辺幸子先生死亡につき花輪を供す

#### 会計報告

七月、八月分別紙どおり承認

#### 議題

一、講演研修会について  
とき 昭和五十四年十一月十日(出  
午後二時三十分  
ところ 至誠会館 四階会議室  
研修会

吉岡弥生賞授賞者の業績発表  
特別講演 野呂幸枝  
懇親会 高橋展子(未定)

研修会終了後懇親会を行う  
会費 三千円位

二、国際会議について  
(1)第十七回国際会議参加条件としては、日本女医会員であること  
(2)旅行社は、日本交通公社、阪急交通社とする  
(3)登録費のみ日本女医会事務局で集金する

(4)第十七回国際会議について  
(イ)一九八〇年八月十七日から二十三日まで、英国のバーミンガム、メトロポールホテル  
(ロ)登録費は約一〇〇ポンド(約五万円)

(ハ)会議参加者は全部メトロポールホテルに宿泊し、予約はすべてロンドンの国際会議準備委員会を通す

(ニ)土産店を設ける(持って行って買うお店)

(ホ)次期会長 Dr. Jossas Pirnia に変って Dr. Joan Redshaw が決定した

(ヘ)新しい参加国としてケニヤとスーダンが加盟となる

(ハ)第十八回国際会議について  
一九八二年フィリピンのマニラで開催決定  
演題は「医学、医療における人間のあり方」または「科学の中の人間のあり方」

(ニ)小野春生先生次回理事会に出席し、国際会議に関して話をうかがうことにする

三、定款細則について  
現在の定款にもつき定款委員会案をとり入れて定款細則を次回より理事会で検討する

四、その他  
(1)昭和五十五年総会に關して群馬支部より要望事項について昭和五十五年総会についての詳細は、群馬支部案ですることとに了解する  
(2)前進座観劇の契約について  
前進座と観劇の契約をすることに決定  
昭和五十四年十二月八日  
・帝国劇場 五百席貸切  
・「大石内蔵助」  
・観劇料割引して四三〇〇円

報告事項

(1) 日本婦人問題会議の開催について

主題 男女平等と社会参加

主催 婦人の活動を進めて

主催 労働省

期日 昭和五十四年十一月二日

場所 東京サンケイ会館

(2) 第三次日中友好東京都民の翼について

期日 昭和五十四年十月二十二日

日 三十一日

費用 三十一万八千円

(3) ルーベングンについて

テレビショッパ扱いの売上数がのびている

(4) 佐賀支部からの書簡について

会長名で庶務部より佐賀支部に返信をする

(5) 自費出版した杉浦愛子先生(神奈川)の著者紹介

結腸癌のため二十八才で逝った甥の死一夕映えの子文一

(6) 国際女医会出版の女医先駆者小伝が残っているので注文希望の方は、事務局まで申し出てほしい

一冊 六千円

(7) 十月は常任理事会の予定であったが、理事会に変更する

(8) 国際会議参加旅行について

阪急交通社、日本交通公社よりそれぞれコース別説明あり

以上 久保田くら

松岡 宏子

日時 昭和五十四年十月二十七日

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

三神、福永、山崎、小俣、久保田、

佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、

守安、八木、大原、川口、川島、

佐野、清水、鈴木、野口、藤田、

森川、山本、添田

欠席(敬称略)

柳瀬、稲葉、尾中、川那部、斉藤、

野呂、蓮井、平瀬、藤井、マツキ

ンストリ、今野、山口

庶務報告

9月29日 常任理事会、理事会を

行う

10月9日 佐賀支部長へ要望書に

対する返信発送

10月17日 佐賀支部より要望書に

対する回答の礼状あり

10月18日 インドシナ難民を助け

る会に福永副会長出席

第二回研修会及び懇親会の通知

を発送する

インドシナ難民を助ける会に出席

しての報告が福永副会長よりあり

会計報告

九月分別紙どおり 川口理事

承認

議題

一、国際女医会議記念事業基金運営

委員会開催の件

昭和五十四年十一月十七日(土)

午後三時~四時

運営委員会を開催する

二、定款細則について

現定款細則を参考に常任理事会で

原案をつくり次回より検討する

三、その他

(1) 各部年次計画案について

事業部 前進座観劇の件

学術部 研修会の件

広報部 機関誌の件

庶務部 名簿発行、通信費の検

討、事務職員の勤務規定作成

会計部 会費未納者に請求書を

出す、納入状況をお知らせす

る

渉外部 国内外の交流、来客の

費用の支出

(2) 世界身体障害芸術家協会(オー

ルメール出版社)より寄付金依

頼について

二千元寄付 承認

(3) 第二回研修会及び懇親会につい

て

現在のところ研修会四十名、

懇親会二十一名の出席希望者

あり、東京都内支部長になる

べく出席してほしい願いの連

絡をする

報告事項

(1) 国際連絡書記報告

(4) 小野春生国際女医会財務委員

長より来年の国際女医会議に

ついて種々説明あり

(5) 中国より王碧雲、台湾より彭

淑媛、現在日本在住の岡村し

まご各先生来訪

(2) 会費納入状況について

会費納入状況と納入依頼を全会

員に発送する

(3) 一九七九年健康と医療展の開催

案内

昭和五十四年十一月一日~五

日

東京北の丸公園 科学技術館

主催 日本経済新聞社

(4) 群馬支部より来年総会について

総会費三千元、宿泊費一万二千

円、懇親会一万円、合計二万五

千円に変更したいとの連絡あり

傍聴者(敬称略)

伊藤慶子(静岡)

以上 久保田くら

松岡 宏子

日時 昭和五十四年十一月十七日

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、

小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、

松岡、丸山、八木、尾中、斉藤、

佐野、清水、鈴木、蓮井、藤田、

山本、今野、添田

欠席(敬称略)

守安、大原、川口、川島、川那部

野口、野呂、平瀬、藤井、マツキ

ンストリ、森川、山口

庶務報告 久保田常任理事

10月27日 常任理事会、理事会を

行う

10月28日 国際婦人科学会出席の

ため来日の女医五名と三神、山

崎、佐野、小野、中村各先生と

懇談す

10月31日 都内二十三区、都下、

学内、関東六県、山梨、静岡各

支部長へ観劇券購入依頼状を發

送す

11月10日 第二回研修会及び懇親

会を行う

研修会出席 五十二名

懇親会出席 三十七名

日本女医学会誌八十号、昭和五十

五年定時総会案内、会費納入願、

ルーベングンパンフレット、観

劇パンフレット(東京、神奈川)

全会員に発送す

青森支部三上ホフ先生より故郷沢

とも先生葬儀に際し、弔電の礼状

あり

日中友好婦人連絡会全体会の報告

あり

会計報告 蓮井理事

十月分別紙どおり 承認

議題

一、定款細則について

定款施行規則を順次検討する

二、その他

(1) 湯本アサ先生葬儀について

日本女医会より香典五千円と役

員有志で病気見舞金の残金七千

五百円とを加え生花を供す

(2) 小田幸子先生葬儀について

生花一万円を日本女医会として

供す

(3)国際女医学会第十七回国際会議参加募集について旅行社より依頼あり

(4)役員新年会について  
日時 昭和五十五年一月二十六日(日)  
場所 至誠会館 四階会議室  
料理はフジランドより  
会費 四千五百円  
理事会終了後新年会

(5)事務職員ボーナスについて  
二、七カ月

(6)国際婦人年日本大会の決議を實現するための連絡会  
時 昭和五十四年十一月二十一日(水)午後三時  
所 婦選会館 会議室

(7)国際女医学会第十七回国際会議の同時通訳について  
通訳料が非常に高いので、専門家を設けたらとの意見もあり、今後なお検討しなければならぬ

(8)前進座観劇券について  
十二月八日の観劇券五百枚全席が売れたことの報告と感謝の挨拶あり

(9)研修会について  
十一月十日に行われた研修会と懇親会が盛会に終了したことの報告あり

(10)十二月二十二日は常任理事会と理事会をすることに決定

報告事項  
(1)全国婦人教育交流集会の開催について  
主題 婦人をめぐる今日的課題  
主催 国立婦人教育会館  
期日 昭和五十五年二月二十日(二十二日)  
会場 国立婦人教育会館  
以上 久保田くら松岡 宏子

会員動静

支部長変更新支部長(敬称略)

岩手支部長 河野弘子  
板橋支部長 大畑信子  
千葉支部長 久田タカ  
杉並支部長 磯部アイ子  
目黒支部長 井原匡子  
品川支部長 萩沢雅子  
都下支部長 石川文字

入会会員(敬称略)

袖山智逗子(大田) 小林正子(大阪10) 発地瑠璃子(千葉) 坂井瑠実(兵庫) 西川信子(港) 木原享子(千葉) 宇田芳枝(千葉) 徳安ミドリ(福岡) 中村久子(石川) 園田初子(佐賀) 松平喜美子(文京) 忍田和子(葛飾) 高杉緑(徳島) 野中美紀(長崎) 福島真由美(佐賀) 八木杏子(世田谷)  
自然退会復活者(敬称略)  
岩谷征子(神奈川)

新卒入会会員(敬称略)

高峯英子(東女医) 近藤智恵子(群馬大) 三橋裕子(岩手医) 末広寧子(兵庫医) 二宮恵子(日本医大) 狼谷真美子(和歌山医) 塚越葉子(東女医) 佐藤弥生(新潟大) 兵働孝子(久留米大) 堅田尚子(兵庫医) 片田成美(独協医) 内藤操(三重大) 佐藤佳子(北里大) 大西慎子(杏林大) 角南祐子(千葉大) 小倉成美子(千葉大) 河野益子(関西医) 鈴鹿有子(関西医) 宝田千賀子(東女医) 今井優子(独協医) 勇村啓子(神戸大) 勝又牧子(東女医) 北岡治子(大阪医) 堀口順子(慈恵医) 田島節子(和歌山医) 松浦洋子(東女医) 横山靖子(札幌医) 夏秋京子(東女医) 寺嶋一主功(和歌山医) 東千代江(医科歯科大) 上田千加子(名古屋大) 藤森順子(三重大) 石川真紀(北里大) 高須由美子(愛知医) 原美津子(兵庫医) 吉田邦子(福岡大) 森川美子(愛知医) 矢崎久美(東女医) 橋本優子(東女医) 西川達子(日本医大) 九谷紀子(金沢医) 深見えり子(愛知医) 藤間能婦子(川崎医) 津野るみ子(福岡大) 舛田安紀子(独協医) 樋口千恵子(北里大) 野口良子(新潟大) 鳥塚真由美(聖マリアンナ医) 角田千恵子(弘前大) 千葉博子(日本医大) 神田沢子(東女医) 細野久美子(東邦医) 足立ヒトミ(東女医) 山崎京子(神戸大) 星野京子(奈良医) 大曲由子(東女医) 大西裕美子(北

退会会員(敬称略)

海道大) 熊谷典子(東女医) 笹本真澄(東女医) 佐々木千尋(東女医)  
木内晶子(目黒) 小熊セツヨ(北海道) 矢吹賀江(練馬) 西村喜代子(京都) 浜口礼子(兵庫) 深田君代(徳島) 宮本松(世田谷) 石雲さかえ(神奈川) 田中かをる(茨城) 藤谷栄子(京都) 金木政子(足立) 山下由紀子(岩手) 池田愛子(千葉) 土屋永子(大阪?) 村上千佳子(昭五十二年卒) 南木一枝(兵庫) 鬼海照子(品川) 内野洋子(大田) 村木貞子(大阪?) 桑名弥生(兵庫)

会員物故者(敬称略)

訃報に接し哀悼にたえず謹んで、冥福をお祈りいたします  
橘富子(大阪3) 三宅ヤスヨ(長崎) 三辺幸子(目黒) 鶴沢とも(青森) 新家すみい(足立) 西大條由子(兵庫) 湯本アサ(新宿) 小田幸子(豊島)

編集後記

復刊第八十一号(一九七九年度第四号紙)一九八〇年一月下旬発行の編集会議を十二月二十二日の理事会后に開きました。三神会長の巻頭言、山崎副会長の年頭に想うの稿はいずれも現執行部の志す方向と意気込みと一九八〇年に取り組むべき問題の提起と興味いただきたいもので

す。研修会の野呂、藤井両氏の稿は参加出来なかつた大多数の会員のために特に乞うたものでございます。懇親報告は種々検討を経ての実行が関係各位の熱意と協力によって挙げ得た成果です。今回もまたわれわれの中から惜しくも喪つた立派な方々に寄せられた思い出の記を掲げることになりましたが、これを通じて故人の徳を偲び残されたわれわれの今後のあり方を省みたいと存じます。この度玉稿をいただきました皆様には厚くお礼申し上げますと共に一定の方針で限られた紙面を按配いたしました関係上すべての稿を全部掲載することは不可能のためやむを得ず割愛の余儀なきにいたりましたことをお詫び申し上げます。何卒ご諒解とお宥しをいただきます。種々国境をこえての困難不安が渦巻くといへ日本に戦争のないことを感謝しつつの越年でございませぬ。日本人としての反省、女性としての思いやりさらに女医として力を併わせて国際年一九八〇年を生きようではございませぬか。  
会員皆様のご多幸を念じつつ広報部一同と共にその任に微力をいたす事の誓いをこめてペンを擱きます。(川那部記)

昭和五十五年一月二十日 印刷  
昭和五十五年一月二十五日 発行  
編集人 野 沢 良 美  
発行人 日 本 女 医 会  
発行所 東京都新宿区市谷河田町19  
社団法人 日 本 女 医 会  
TEL (31)〇九六八  
印刷所 東京都文京区本駒込一七斗十五  
株式会社 北 斗 社